

苗場山麓 ジオパーク

Vol.

21

振興協議会だより

〔発行日〕平成28年10月27日
〔発行〕苗場山麓ジオパーク推進室
〔お問い合わせ〕025-765-1600

伊豆半島ジオパークで第7回日本ジオパーク全国大会が開催されました！

10月10日から12日まで伊豆半島ジオパークで全国大会が開催されました。

10日は、沼津市の総合コンベンション施設「プラサ ヴェルデ」を会場に、JGN臨時総会に於いて会費値上げの協議が行われ「年会費40万円」に増額されました。午後からは開会セレモニーが行われた後、巽好幸氏(神戸大学海洋底探査センター教授)による基調講演「列島からの恩恵 大陸誕生の謎を伊豆から考える」を拝聴しました。その後、市町村長セッションでは、上村町長と森川村長から登壇頂き、全国の市町村長と共に「なぜジオパークを推進するのか」「なぜにネットワークとして連携するのか」などの設問の発言を受け、考えて頂きました。



分科会では、12の分科会で10日、11日の2日間に亘り活発な討議が行われ、そこでまとめられたキーワードから構成された「沼津宣言」が閉会式に宣言されました。

分科会1は＜保全＞です。「溶岩と湧水の里でジオパークの保全を考えよう」をテーマに国指定天然記念物「楽寿園」の現地視察を含め活発な討議が行われました。天然記念物としての保全、市民の憩いの場としての利活用に伴う保全、豊富な湧水地点に造営された楽寿園の湧水激減、楽寿園を源とする源兵衛川の環境悪化からの再生、町造りに組み込まれた水の保全と見せ方、など苗場山麓ジオパークが抱える課題と交差する議論が多くありました。その中で紹介された「NPOグラウンドワーク三島」は「走りながら考える！」そして「右手にスコップ、左手に缶ビール」を合言葉に展開する人的資源、環境資源を生かしたプログラム満載な活動を展開していました。その戦略には革新的な地域再生保全の規範とアイデアがありました。

また、11日午後から12日まで、11か所に分かれテーマ毎のジオツアーが開催されました。



《ジオツアー》天城山八丁池トレッキングツアー

11日の閉会セレモニーの後、ジオツアーが始まりました。1日目には伊豆半島ジオパークミュージアム「ジオリア」の見学をし、2日目朝からトレッキングツアーとなりました。

天城山には天然のブナ林が見られ、国立公園の特別保護区に指定されています。この地域には樹皮が淡い褐色のヒメシャラが多産していて、ブナの大木との混生林は独特の景観をつくりだしています。ガイドの話では林床に下生えがほとんど見られないのはニホンジカの食害とのことで、シカの嫌いなアセビやシロヨメナだけが群生する異様な場所も点在していました。八丁池は断層のずれによってできた窪地に水が溜まったものだということです。



苗場山麓ジオサイクリング 開催

9月25日、河岸段丘や秋山郷の深い溪谷など多様な地形で成り立っている苗場山麓の大地を自転車で楽しむ苗場山麓ジオサイクリングが開催されました。

晴天のもと、ニュー・グリーンピア津南をスタート・ゴールとし、ロングコースは100キロ、ショートコースは65キロの道のりを合わせて42名が駆け巡りました。

コース上にはエイドステーション(参加者に飲食を提供する場所)を設け、地元の水や新米おにぎり、米粉スイーツや地場野菜の惣菜などを提供し大変好評でした。



立山黒部ジオパークで中部ブロック大会 開催！

8月26日、27日と、富山県黒部市の立山黒部ジオパークで日本ジオパーク中部ブロック大会が開催されました。立山黒部ジオパークは民間主導で運営しているジオパークであり、その活動が注目されています。

黒部宇奈月温泉駅近くの地域観光ギャラリーを見学した後、大会1日目は「地域の特性を活かした個性的な活動」をテーマに、中部ブロック10箇所のジオパークが、それぞれ特色ある独自の取り組みを発表しました。2日目は、宇奈月温泉の源泉の見学、幹に空洞がある巨大杉(洞杉)の見学、漁師町(生地地区)を巡る、という3コースに分かれてのエクスカーショが行われ、地元ジオガイドさんの案内のもと、各コース特色あるツアーを体験できました。

他地域との交流は、現在の課題や今後の方向性などを改めて見つめ直す機会となりました。苗場山麓ならではの道筋をつけられるよう一層励んでいこうと思います。



地域観光ギャラリーにある巨大ジオラマ

芦ヶ崎小学校 全校防災キャンプ



防災の日である9月1日、芦ヶ崎小学校全校防災キャンプが実施されました。毎年開催される全校キャンプですが、長野県北部地震から5年が経ち、震災の記憶が風化しつつある今、地震で水道が使えないという想定の下行われました。津南町役場総務課防災担当の山田佑樹氏を講師に、5年前の震災の様子や豪雪の様子、現在の防災への取り組みの講演を行いました。そして、非常食の説明があり、実際に食べる体験も行いました。ジオパーク推進室からはなぜ地震が起きたのか、地域の特性を紹介する講演を行いました。

子どもたちは、水道が使えないため、学校近くの湧水で水を汲み、水の確保を行いました。手洗い用・トイレ用・飲食用としっかりと分けてそれぞれ必要な場所に配置しました。そして、体育館では、避難時を想定して段ボールを使って仕切りをつくり、それぞれの寝床を確保して一晩を過ごしました。

津南町の小学1年生、2年生がジオの講話と石のペイントを体験



9月20日、上郷小学校で、津南町の全小学校の1、2年生を対象としたジオ講話と石のペイント体験を実施しました。津南町では数年前から、小学校の各学年で全町の児童が集まり交流を行う授業が行われています。今年度、1、2年生は、ジオパークをテーマとした学習・体験・交流授業を行いました。子どもたちは、5つのグループに分かれ、一人一人自己紹介し、名刺交換をするなど、交流を行いました。そして、それぞれ学校区にあるジオサイトを紹介し、信濃川にはさまざまな石があることを紹介しました。そして、本物の石を観察し、その違いを確かめました。その中から石をひとつ選んでペイントを行い、多くの力作が生まれました。ペイントを通



じて、石の表面の違いを体感することで、多様な石があることも知ることができます。

絵解きジオパーク イラスト:鈴木夏海



映画「ゆれる」のロケ地でもある見倉橋で、たたずむ女性が見ている川面付近から見えるものはなんのでしょうか？

苗場山麓ジオパークのジオサイト

57 の見どころを随時紹介していきます

蛇淵の滝



所在地 津南町大赤沢 **種別** 地質

中津川上流部の大赤沢集落に位置する滝です。長野県と新潟県の県境でもある硫黄川と中津川合流点のやや下流に位置し、結束層と呼ばれる固く変質した玄武岩によって高さ約10mの滝が作られています。

その名の由来とされる、「熊捕り名人の善七さんが熊を追って川を渡ろうとしたとき、川に丸太橋が架かっていた。渡り終え、ふと後ろを振り返るとそれは大蛇だった。」という蛇にまつわる伝説が残されています。

この素晴らしい滝を見学することのできる展望台が整備されています。

和山の崖（凝灰岩）



所在地 栄村和山 **種別** 地質

新第三紀中新世中期から後期に湖であった所に堆積したと推定される、凝灰岩の地層です。

中津川上流の和山付近、特に中津川左岸に大露頭があり、対岸からみることができます。

和山から小赤沢にかけての中津川沿いに分布し、層厚は100m以上あります。

石英安山岩質（デイサイト）火山碎屑岩を主体とする、秋山郷累層内のものです。

※地質学の学説は複数あり、現在も研究が続いています。そして、本地域の調査研究がこれからも行われる必要があります。

百ノ木の露頭について

8月、津南町の県道結東・上郷宮野原線の百ノ木地内にて用水路工事に伴い、新鮮な露頭（地層）が出現しました。興味深い地層模様でしたので、専門家を招いて地層の観察と試料採取及び地層の記録保存を行いました。

特徴としていくつか挙げると、次のようになります。

- 1 地層の上部に白色の石英（高温石英*1）を主とした火山灰の層が見られます。太陽の日差しを受けて、キラキラ輝いていて、詳しくみると、数は少ないものの重^{きんせいせき}青石が含まれています。このことから、今から約115万年前に群馬県の榛名山方面からもたらされた火山灰（上越火山灰*2）と考えられます。
- 2 火山灰の層の上下の地層は、いずれも主に毛無山方面の火山活動でもたらされた火砕流（スコリアラビリ*3）と考えられています。
- 3 左右の地層の間に地層が断ち切られているのがわかります（図中の赤い点線）。左側上部のたい積の様子は複雑ですが、左側の部分が滑ってきた後、右の上部の地層が滑ってきたのではないかと考えています。つまり、地滑りによる断層ではないかと思われます。

また、この露頭そのものが上部から滑ってきたと考えられます。というのも、両サイドに連続する地層がみられないことに加え、1で記述した上越火山灰が百ノ木の500mほど横平川上流の屈岨付近の林道に見られるためです。

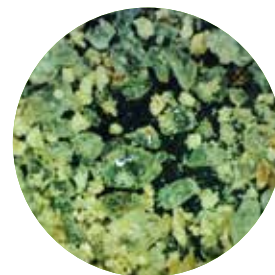
工事の進捗により、現在この露頭には金網がかかり、今後植物を吹き付ける予定だということです。

また、ほかにも新鮮な地層露頭面などを見かけたときはジオパーク推進室に情報をお寄せください。

*1：石英の結晶が晶出する際の温度が575℃以上の時にできる、ころころとしたそろばん玉の様な形の石英のこと。ロッククリсталにみられる柱の部分が極短いもの。

*2：津南町をはじめ、十日町市及び上越地方にも降灰したため、上越火山灰ともいわれる。

*3：マグマが空中に放出されるときにマグマ中のガスが抜けた岩石のうち色が黒・褐・赤等のものをスコリアという。一方、白っぽいものはパミス（軽石）という。



石英粒

新潟テレビ21「新潟自慢」に苗場山麓ジオパーク登場！

UX新潟テレビ21で放送の番組「はるかの『これっ!新潟自慢』」に苗場山麓ジオパークが登場しました。

10月4日、朝まで降っていた雨も上がり、取材に訪れたUXの皆さんと認定ガイドの高橋一彦さんが「河岸段丘（マウンテンパーク津南からの眺望）」、「逆巻の川原と猿飛橋」、「石落し」を巡りました。

番組は10月16日と23日に放送されました。後日、UX新潟テレビ21の「新潟自慢」のウェブサイトで見ることができるそうです。「新潟自慢」で検索してみてください。



『津南学』の5号が刊行

津南町教育委員会が発行している『津南学』5号が刊行となりました。この5号には、ジオサイトとなっている今井城跡についての論文や、古型マンモスの臼歯化石発見者の1人である高橋紀久郎さんによる当時の回想録のほか、平成27年度苗場山麓ジオパーク学術研究奨励事業報告の概要などが掲載されています。

なじもん、津南町観光協会、栄村・津南町のお土産店などで好評発売中！（1冊1,620円）



絵解きジオパーク その答えは

中津川中流域に架かる吊り橋である「見倉橋」は、結東集落と見倉集落を結ぶ大切な生活道路としての橋です。標高約700mの見倉集落と見倉橋との比高差は約200mを測ります。川面の岩に波が打ち寄せ、カワセミが舞う様子を女性が眺めており、江戸時代の文人 鈴木牧之が描いた大きな岩を見ているようです。ぜひ、牧之が描いた江戸時代の中津川の様子と現在の様子を比較頂きたいものです。この両岸に切り立つ岩肌は、地名を取り「結東層」と呼ばれる日本海ができた頃の堆積物です。今から約1,800万～1,500万年前の秋山郷地域は、深い日本海の底でした。主に海底の火山活動に伴い噴出した溶岩が変質して固まった固い安山岩質の凝灰角レキ岩の地層ですが、少し上流では、変質した玄武岩へ変わっていきます。